

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-151	24-052	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Association between adolescent alcohol use and cognitive function in young adulthood: A co-twin comparison study 青年期の飲酒と若年成人期の認知機能：双生児比較研究		
執筆者		
Cooke ME, Stephenson M, Brislin SJ, Latvala A, Barr PB, Piirtola M, Vuoksimaa E, Rose RJ, Kaprio J, Dick DM, Salvatore JE.		
掲載誌		
Addiction. 2024 Nov;119(11):1947-1955. doi: 10.1111/add.16629.		
キーワード	PMID	
青年期、飲酒、双生児比較研究、認知機能、語彙スコア	39108000	
要 旨		
目的： 青年期の飲酒と若年成人期の認知機能の関連を、遺伝や薬物使用、喫煙等の種々の要因を考慮し明らかにする。		
方法： フィンランドの双生児研究の参加者 812 人（女性 58.6%、双生児 361 組、一卵性双生児 146 組）を対象に、14-17-22 歳時の飲酒と大量飲酒の頻度を調査した。認知機能は 22 歳時に Trail Making Test, California Stroop test, Wechsler Adult Intelligence subtests (Vocabulary, Block Design, Digit Symbol), Digit Span subtest of Wechsler Memory Scale, Mental Rotation Test and Object Location Memory test などにより評価した。22 歳時の認知機能を従属変数、14-17 歳時の飲酒および大量飲酒の頻度の平均を独立変数として、多重回帰分析により標準化偏回帰係数(95%信頼区間) (β (95%CI)) を算出した。		
結果： 青年期の飲酒および大量飲酒頻度が多いほど語彙スコアは低く、双生児の β (95%CI) は飲酒頻度； -0.12 (-0.234, -0.013)、大量飲酒； -0.057 (-0.124, 0.011)、一卵性双生児の β (95%CI) は飲酒頻度； -0.605 (-0.523, -0.087)、大量飲酒 -0.301 (-0.528, -0.074) であった。		
結論： 青年期の飲酒は若年成人期の認知機能と関連しており、飲酒頻度が多いと語彙スコアが低かった。		